

Hello, from
Around the World

ALT通信

白河で活躍するALT（外国語指導助手）を紹介！



チャウ・リッキー先生
(オーストラリア・ノーザンテリトリー)
☎本庁舎学校教育課 内2365

お気に入りの場所は学校！

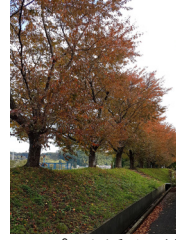
皆さんはじめまして！私は昨年8月に、オーストラリアのダーウィンから来ました。ダーウィンは熱帯気候で蒸し暑く、夕日のきれいなミンディルビーチが有名です。ワニの生息数も多く、一緒に泳げるプールがあったり、ワニ肉を食べたりします。

白河は山も多く、自然がきれいな町だと思います。平成25年から2年間、静岡県掛川市でALTとして来日していましたが、雪の降る地域に住むのは初めてです。

授業を担当している学校は、信夫一小・東中・大信中です。楽しく英語を勉強してもらうため、さまざまなゲームを取り入れています。また、大学までバドミントン

を続けていたので、中学校の部活動では、子どもたちと一緒にプレーしています。

私の趣味は料理で、カレーなどを作ります。ラーメンが好きでよく食べますが、白河ラーメンの縮れ麺は、とてもおいしいです。



▲アパート近くの並木道が好きです

これからもたくさん子どもたちに英語を教えたいと思っています。一生懸命頑張りますので、よろしくお祈りします！

英語で一言！

Where there's a will, there's a way. 「意思あるところに道あり」



魅る「仁」のころ
白河戊辰戦争150年

白河戊辰戦争回顧録

未来へつなごう「仁」のころ

第11回 戊辰戦争の考察文⑦

《東西両軍の交流と触れ合い》
今回は戊辰戦争中戦後の交流の話を紹介いたします。

1868年5月1日の激戦の朝、八竜神で水車屋を営んでいた亀屋柁吉の妻は、出産直後だったため、谷津田川の土橋の下に避難していました。そこを通りかかった西軍の兵士が、赤子に「勝軍太郎」と名付け「官軍は町人や婦人に手は掛けぬ」と言ったという話が残っています。

白河を占拠した西軍はしばらく駐屯した後、会津へ転戦する際に、それまで宿泊していた松並の松井幸太郎家に、御礼として置いていった陣羽織の裏地が今に伝えられています。

同じく西軍が白河を占拠した際、大工町の吉成房次郎家に薩摩藩の軍楽隊が滞在しました。同家に「薩州四番隊附金穀方」と書かれた木箱が伝わっています。薩摩藩士の野津道貫は宇都宮の戦争で負傷し、白河には5月1日の戦いの終了後に到着しましたが、そこで病にかかり天神町の菱屋の飯田すいの世話になりました。明治になってからも野津は感謝の手紙を菱屋に送っています。

同じ5月1日、薩摩藩の砲兵隊長の大山弥助は、小丸山から稲荷山方面を砲撃しました。後

に大山は巖と名を変え陸軍大將となります。妻を亡くした後、元会津藩士の山川健次郎の妹捨松と再婚しています。

また、長州藩士だった榎崎頼三は白河で戦った後、会津若松まで従軍し、帰郷の際、白虎隊士の飯沼貞吉を故郷の小杉（山口県美祢市）まで連れ帰り、世話をしたといわれています。このことを偲び、一昨年、当地に「恩愛の碑」が建てられました。

このような戦中戦後の東西の交流などの良き関係は、同じ日本人としての思いや和の精神、希望といったものが感じられるのではないのでしょうか。

(文・植村美洋)



▶大山巖
(国立国会図書館のウェブサイトで)



▶飯沼貞吉
(飯沼貞吉孫・飯沼一元氏提供)



▶大山捨松
(国立国会図書館のウェブサイトで)



▶野津道貫
(国立国会図書館のウェブサイトで)